

ねりま NPO ニュース

主な
内容

- 1面／ NPO 法人の学童クラブ
- 2面／ 人と猫が共生できるまちづくり
- 3面／ 絵本の力で大人も子どもも幸せに
- 4面／ 区内 NPO の現況⑬

発行／練馬区 NPO 活動支援センター
 情報発信・団体間ネットワークの構築事業／担当
 NPO 法人練馬区障害者福祉推進機構

地域の子どもたちを 支援する学童クラブ

NPO 法人
こどもクラブ
赤とんぼ



施設長の遠藤美紗枝さん

昭和にタイムスリップしたような懐かしい空間。かつて第二出張所として使われていた建物が、平成16年5月、民間の学童クラブ「子どもクラブ赤とんぼ」として生まれ変わりました。名前の由来は、元気よく大空に羽ばたく赤とんぼのように育てほしい、という思いから。今年度は55名の子どもたちが通います。

「開設して3か月後にNPO法人格を取得しました。メリットは、企業からの援助や寄付の情報が入ってくることでですね」と話すのは、施設長の遠藤さん。



築60年の木造平屋建て

子育てを終えた後、地域のボランティアや民生委員の活動をしながら「子どもに

関わることを何かやりたい」と思っていたところ、出張所の移転に伴い建物が空いていたため、この場所を借りて開設することになりました。

「小学校に近くでこれだけの広さがある建物はなかなかありません。窓は木枠ですきま風が入りますが、5年前の耐震工事の際には、大工さんに丈夫な建物だと言われたんですよ。昔の建物はすごいですね」

子どもたちは、放課後や夏休みなどの長期休暇の間、宿題をしたり、ボール遊びをしたり、マンガを読んだり…と、自由に過ごします。お誕生日会や特別な日のおやつには、人気No.1の鯛焼きが出ることも。

また、クリスマス会では、楽団によるアンサンブル演奏や高校生のボランティア、お母さんたちのコーラスなどがあり、地域との交流も盛んです。2月に開催する「赤とんぼフェスティバル」の来場者は350名



近所の畑でのジャガイモ掘りは、夏の恒例イベント。この後みんなで作るカレーの味も格別！

以上。文字通りの地域密着イベントです。7名いるスタッフは、人柄も心も通じた地域の人ばかり。

「開設当初からずっと変わらない顔ぶれです。みんなで無我夢中でやってきたら10年経っていたという感じですね」

卒業した子どもたちが顔を見せに来てくれることも多いそうです。

「成長した姿を見るのは本当によろしいです。民間団体なので規定も緩やかですから、子どもたちに寄り添いながら継続していけるように頑張りたいです」

■ NPO 法人こどもクラブ赤とんぼ
 施設長：遠藤美紗枝
 住所：平和台3-22-11
 TEL：6766-8553

NPO に関するご相談を受け付けています

練馬区NPO活動支援センターを構成する団体

会計・税務など

- NPO法人練馬区障害者福祉推進機構 ☎ 6904-1033
豊玉北4-11-7 月～金曜日 9時～17時

IT（情報技術）について

- NPO法人インターネットビジネス研究所
HP24時間受付 メール info@ib-r.com

ねりまNPO

検索

ホームページは
こちらから

団体設立・運営など

- 社会福祉法人練馬区社会福祉協議会
- ① ボランティア・地域福祉推進センター ☎ 3994-0208
練馬区役所東庁舎3階 月～金曜日 9時～17時
- ② 光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナー ☎ 5997-7721
光が丘区民センター6階 月～金曜日 9時～17時
- ③ 大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー ☎ 3922-2422
東大泉2-8-7パレスフォントーン3 1階 火～土曜日 9時～17時
- ④ 関町ボランティア・地域福祉推進コーナー ☎ 3929-1467
関町リサイクルセンター1階 月・火・木～土曜日 9時～17時

人と猫が共生できるまちづくりを目指す

NPO法人ねりまねこ



理事長の亀山知弘さん(左)と、副理事長の亀山嘉代さん(右)。ご夫婦での活動です

人の住むところに野良猫あり。餌をあげる人もいれば、反対する人もいる…。そんな身近な猫の問題を軸に、地域のコミュニティ活動に取り組んでいるのが「NPO法人ねりまねこ」です。自宅の庭に来ていた猫が、子猫を産んだのがきっかけと話すのは、副理事長の亀山さん。

「これ以上増えないようにと野良猫対策について調べていたら、『練馬区地域猫推進ボランティア』にたどり着きました。事前説明を受ければ誰でも登録できるボランティアで、現在は140名います」



ココネリで開催された「NERIネコ(猫雑貨の物販展)」では、「猫を拾ったらどうするか?」のテーマで写真展を開催

これは、①去勢・不妊手術、②適切な餌やり、③トイレ作り、という三原則をもとに野良猫を「地域猫」として管理し、徐々に数を減らしていくという先進的な活動です。

平成22年に夫婦でボランティアに登録すると、まず保健所の職員と一緒に町会に説明をし、近隣にも話をして回りました。手伝ってくれる人も現れ、活動範囲が広がっていきましたが、労力や費用をかけて野良猫を捕まえ去勢手術を受けさせることの繰り返し。虚しさを感じ、「もうやめよう」と思った頃、感謝の言葉をかけてくれる人やカンパしてくれる人が増えてきたのです。

「他人に感謝されると思っていたので、びっくり！ 猫の問題解決にとどまらず、町を笑顔にするための地域のコミュニティ活動だとわかったんです」

もともと人と話すことが得意だった亀山さんは、色々な猫の悩みを聞くうち、餌をあげる人も反対する人も孤独だと気づき、双方がまちのコミュニティに入れるよう中立的なコーディネーターが必要だと実感しました。

「『手術を受けさせ、餌やりも



気付けば様々な講演会にも引っ張りだこで、亀山さん自身が一番驚いているそう

トイレも管理する。一代限りの命なので見守ってください』と説明すれば、わかってもらえるんです。人とのコミュニケーションができれば、専門知識は必要ありません」

地域猫の普及や講演活動のためには、個人よりNPO法人の方がやりやすいと、亀山さん夫妻はボランティア仲間へ声をかけ、平成26年5月にNPO法人を設立。今では全国から声がかかり、イベントや講演会に出演したり、写真展を開いたり、大きな流れの中にいます。

「猫の好き嫌いや餌やりの良し悪しではなく、これは町の環境問題。住みよい町を作るためには、解決するのは自分たち自身なんだと感じてもらえたらいいですね」

人と猫が共生できるのは、地域のコミュニケーションが円滑な証です！

■ NPO法人ねりまねこ

代表：亀山知弘

TEL：090-9858-0227

メール：nerimachiikineko@yahoo.co.jp

http://ameblo.jp/nerimanecko/

われは行く「おせっかい」と言われても

第9回

人材はお年寄りのなかに



木谷 八士(きたに やつし)

光が丘7-7-1号棟自治会会長。7年前、自治会結成後に4件の孤立死を体験してから、この問題に関心を寄せるようになった。平成26年3月に光が丘地区連合協議会が刊行した冊子「おせっかいなまち 光が丘 ～孤立死ゼロをめざして～」の編集委員会委員長。

「自治会づくり外部委託も」という団地向け新聞の大見出しに目を引かれました。東日本大震災の被災地にある仮設住宅での話です。

被災者の出身地がバラバラなので顔見知り少なく、自

治会づくりが進まないのだそうです。町役場の職員が呼びかけて集まっても、「バス便を増やして買い物に行きやすくしてほしい」「冬に向けて雪や風が心配」という町役場への要望ばかりで、肝心の役員選びまでいかないというのです。

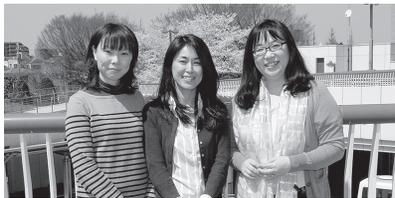
仮設住宅に自治会ができないのに、孤立死は増えてゆく一方…。そこで町役場は、ある国際財団に委託することにしました。この団体は、永く続いた戦火が消えて住民が戻ってきたベトナムやカンボジアで地域づくりを支援してきた実績があります。

早速、棟ごとに小さく集まって班長を互選し、次に各班



絵本の力で大人も子どもも幸せに

マカロニバス



左から、谷村淳子さん、代表の小野由希子さん、大久保徳久子さん

「マカロニさん、今度はいつ来るの?」と、子どもたちが楽しみにしているのは、毎月1回、光が丘の保育園で10年間絵本の読み聞かせを続けるユニット「マカロニバス」。現在のメンバーは、元出版社勤務で絵本講師の小野さん、幼稚園教諭と出版社勤務の経験をもつ谷村さん、フリー編集者でコーチング講師の大久保さんの3人です。

最初のきっかけは、出版社時代に谷村さんが書店巡りで読み聞か



保育園での読み聞かせ。子どもたちをひきつける数々の絵本は、3人で持ち寄って決めています

せをしていた頃、同僚だった小野さんを誘ったこと。その後、小野さんのお子さんが通う保育園へ定期的に読み聞かせに行くようになりました。1歳～5歳の各クラスを順番に回り、年齢に合った絵本を数冊ずつ読むというスタイルです。

「10年も継続できているのは、園の協力体制のおかげ。読み聞かせ当日に向けて、先生方が子どもたちを盛り上げてくれるんです」（谷村さん）

「子どもたちがどこで笑うのか、何に反応するのかなど、現場で教わるのがたくさんあります。毎月子どもたちの成長を実感できるのも楽しいです!」（大久保さん）

園ではハイタッチを求められたり、読み聞かせの真似で「マカロニさんごっこ」が流行ったりするほどの人気ぶり。園児にとって憧れのお姉さんたちです!

長く続いているもう1つの理由は、「無理せず、楽しんできたから」。結婚や出産、介護など、メンバー皆で協力し合いながら共有してきたので、活動が負担になる



各メンバーの持ち味が発揮される「絵本の力」講座

ことはありませんでした。

平成26年度からは、「もっと広く絵本の力を伝えたい」という思いで、練馬区教育委員会の委託講座「絵本の力」をスタート。これまでの講座では、「絵本を使った子育てコーチング」「読み聞かせをしている大人の脳も活性化される」など、多角的な内容を展開。専門的なコーチング理論も、絵本を使ってわかりやすく解説します。

「大人向けの読み聞かせでは、涙を見せる方や、『良い時間でした』と感動してくださる方もいるんです。これからも続けていきたいですね」（小野さん）

「絵本の力」講座は、平成27年度も全4回の開催を予定。食育をテーマにしたり、親子で絵本作りをしたりと、多彩な内容を検討中です。

■ マカロニバス

代表：小野由希子

メール：macaronibus55@gmail.com

http://ameblo.jp/macaronibus/

長が集まって全体の役員を選び出す、という方法が進められました。外部委託といっても、自治会結成のお手伝いというところのようです。

自治会づくりで役員の引き受け手がないという悩みは、被災地だけでなく、わが光が丘団地でも大なり小なり共通しています。私の住んでいる建物の周辺で自治会が未結成のところへ「呼びかけチラシ」を各戸に配り、何人かの方に集まってもらいましたが、準備会役員を引き受けられる人は出ませんでした。

“自分たちのことは自分たちで決める”というのが自治ですから、そこを外すわけにはいきません。「世代を変えよ」「若手を出せ」とよく言われるためか、それに目をとられて、私たち高齢者の中を当たって人材を見つけることが弱くなっているように感じます。

私は「人材はお年寄りのなかに」という目で見回してみました。いました、いました、ご近所に2人もいました。いずれも70歳代ですが、元気いっぱいの方々です。

「次の自治会総会でぜひ役員に」とお願いすると、「それまで自治会についての関係書を読んで勉強してみます」との返事。うれしくてうれしくて、廊下をスキップしながら我が家へ帰りました。



練馬区内 NPO の現況 ⑬

～ NPO リーダーは初心の意志継承を～

2000年代初頭に米国経営学のリーダーシップ研究で発表された「リーダーシップパイプライン」と呼ばれる後継者育成の考え方があります。米国の巨大企業の一部では、この考え方を基にリーダー育成、各担当部門の後継者育成の仕組みや構造が構築され、成果を上げ始めています。そのカギとなるのが、トップリーダーや創業者、中興の祖の持論リーダーシップです。

例えば米国 GE (ゼネラル・エレクトリック)社では、ジャック・ウェルチ元会長による、リーダーのあるべき姿の合言葉「4E」が有名です。その4Eとは、Energy (自分自身がエネルギーに溢れている=仕事を成し遂げる情熱)、Energize (周囲を元気付ける=人を刺激して行動させる)、Edge (エッジを持っている=競争心が強く、困難な決断を下すことができる)、Execute (実行力がある=結果に結びつけることができる)です。

各階層(役員クラス、本部、部、課、係等)の現リーダーと後継者候補が、トップリーダーの持論リーダーシップやその組織における草創期からのリーダーシップのあり方を、業務を通じて共に学びながら行動します。それぞれの階層のリーダーは、所属組織のリーダーシップのあり方(上記の4Eの例や創業者のリーダーシップの考え等)を基に、業務を通して自身の考えを後継者へと伝えます。後継者はそれを自分なりに解釈し、自分のリーダーシップの持論を基に業務へと活かします。組織の中の各階層で、トップリーダーから各階層のリーダー、現場の最前線、各階層の後継者まで、その組織におけるリーダーシップのあり方を自分なりに体現し、各階層が同時進行で次の代に引き継いでいく仕組みです。

現在、練馬区はもとより全国各地で市民活動団体の高齢化による後継者不在が大きな悩みとなっています。現在リーダーシップを発揮されている団体のリーダーの皆様は、一度で自身のリーダーシップの持論を言語化し、これから引き継いでほしい人たちに伝えながら共に活動していくことも大切ではないでしょうか。

広報の活動 や宣伝に ご利用ください!

練馬駅北口のココネリの3階に区民協働交流センターがオープンして1年を迎えました。公益的な活動を支援し、また協働の推進を図ることを目的としたセンターフロアには、NPOやボランティア団体、町会や自治会などが利用できる種々の設備があります。

団体の活動をお知らせする掲示板や、パンフレットやチラシの配架ラックの設置など、皆様の活動を広く宣伝する場所としてご利用ください。



NPO 助成金情報

助成内容や応募条件などは各助成金によって異なりますので、必ず事前に詳細を確認してください。募集要項・申請書類については、各ホームページからダウンロードしてください。

■公益信託オラクル有志の会ボランティア基金

*対象分野

東京都において社会的な貢献活動を行う都内に事務所を置くNPO法人やボランティアグループの、平成27年7月～平成28年3月に行う事業に助成。

*申請書

下記のホームページからダウンロードで入手できる「助成申請書」用紙(A4判2枚)に記入して応募。

*助成額

10万円から100万円の範囲内で万円単位の額とし、原則として1法人または団体100万円を限度とする。助成希望額をもとに運営委員会にて金額を決定。助成金総額 2,750万円

*募集内容等の詳細 <http://charitable-trust.oracle.co.jp/>

◎ 応募締切 平成27年4月1日(水)～5月20日(水)

■ Panasonic NPOサポート ファンド

*助成対象団体

- ①環境問題に取り組み、強い市民社会の創造を目指すNPO/NGO
- ②子どもたちの健やかな育ちを応援する新しい社会の創造を目指し、先駆的な活動と自己変革に挑戦するNPO/NGO
 - ・団体設立から3年以上であること
 - ・日本国内に事務所があること
 - ・有給常勤スタッフが1名以上であること

*助成対象事業

第三者の多様で客観的な視点を取り入れた組織基盤強化の一連の取り組みを最長3年まで応援します。

*助成金額

1団体への上限200万円。

・助成総額は、「2015年新規募集」「継続助成」あわせて、環境分野1,500万円、子ども分野1,500万円、合計3,000万円

*助成事業期間 平成28年1月1日～平成28年12月31日

*募集内容等の詳細 <http://www.panasonic.com/jp/corporate/sustainability/citizenship/pnsf.html>

◎応募期間 平成27年7月16日(木)～7月31日(金)

★音声でお読みください

ご存知でしたか? 練馬区NPO活動支援センター発行「ねりまNPOニュース」は音声で伝える「視覚障害者用」録音版を貸し出しています。ご希望の方は一步の会にお申し込みください。

NPO法人点訳・音声訳集団一步の会
練馬区高松2-16-12 ☎ 3577-5666

発行所 練馬区 NPO 活動支援センター

〒176-0012 東京都練馬区豊玉北4-11-7

電話: 6904-1033 FAX: 5946-4902

ホームページ <http://nerima-npo.com>

メールアドレス(編集部): office@nerima-npo.com

練馬区へのお問い合わせは、
練馬区地域振興課地域コミュニティ支援係 電話: 5984-1039 (直通)